

# 日本語教員養成 の再編に向けて

登録日本語教員制度  
を機に、これからの  
日本語教育について  
一緒に考えませんか

---

北出慶子  
立命館大学 文学部・言語教育情報研究科

---

2024年2月24日(土) 10:00-12:00  
文化庁 令和5年度  
日本語教師養成・研修推進拠点整備事業  
主催:金沢大学

# 本日の流れ



10:10-11:10

講演&意見交換の話題提供



11:10-12:20

Q&A



11:20-11:55

グループでの意見交換と  
全体共有

# 本日のお話

---

1. 国家資格化の  
基準とは？何が変  
わる？



2. カリキュラムの  
再編で、まず何か  
ら検討すべき？



3. 言語教育観、  
言語教師教育観  
とは？



4. グローバル社会の  
日本語教師教育を  
考えるヒントとは？



日本語教育の  
これからについて  
ディスカッション

国家資格化を受け、日本語教師養成では、何が求められるのか？

今までとの違いは何なのか？



## 1. 国家資格の基準

---

。

# 大学の日本語教員養成における 主な制度的変化

主な制度的変化を取り上げていますが、全てではない可能性があります。

## 国家資格対応前

登録制ではない

実習	実習内容や受講条件は自由 実習と養成課程は一体
必須の50項目	H31案(26単位の2/3の授業で 必須の50項目をカバー)
単位	26単位、または45単位
試験	日本語教育能力検定試験に合格しなくても 告示校で教えることができる

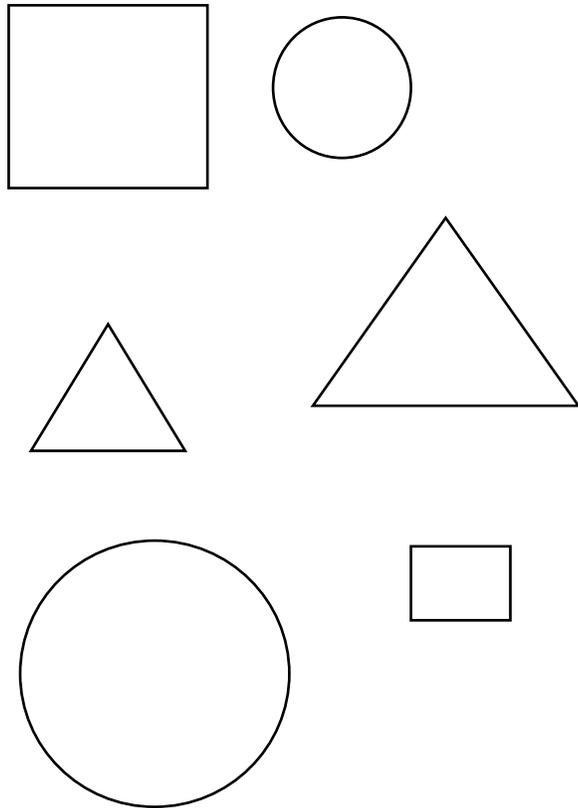
## 国家資格化に対応した型

登録日本語教員養成機関に求められる基準

実習	実習内容や受講先修条件が厳格化 実習機関と養成機関は別登録
必須の49項目	25単位分は「必須の49項目」を カバーする必要がある
単位	25(+1)単位が基準
試験	養成課程と実習に加え、 「応用試験」合格が必要になる

「資質・能力」の技能と態度をどのように育成するかは、個々の養成現場に任されている

# 国家資格化のインパクトとは？



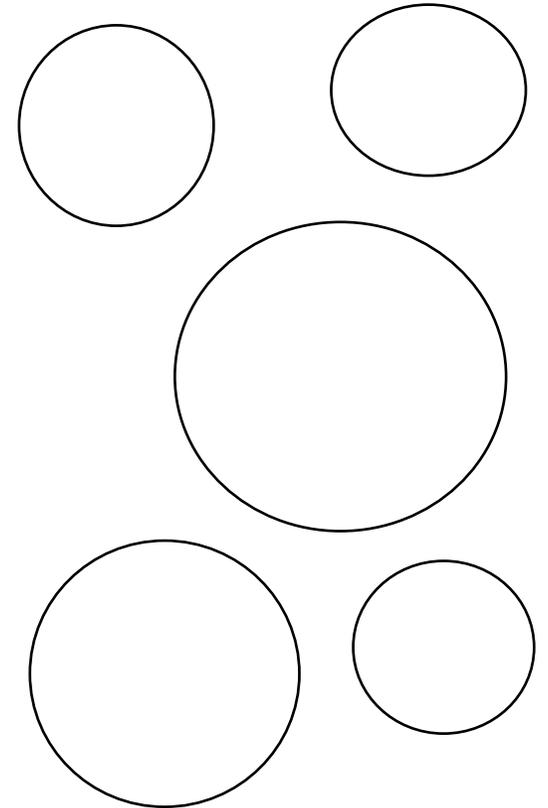
## メリット例

- 質担保
- 専門性の確立
- アーティキュレーション、シームレス

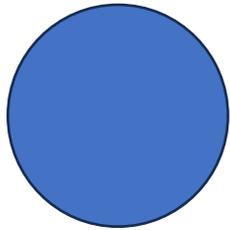
国家資格化

## リスク例

- 画一化により...
- 基準の妥当性

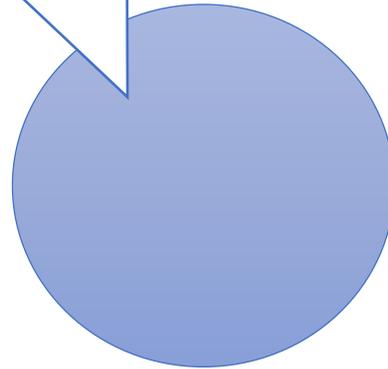


# 例えば...



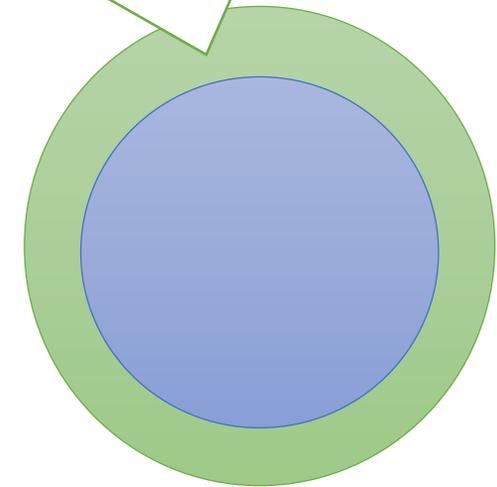
最低限のプログラム：  
25単位で必須49項目を  
効率よくカバーする。  
(+実習)

どのようにすれば、  
知識だけではなく**技能・  
態度**も育成できるか



必須49項目(+実習) +  
「養成に求められる**資質・  
能力**」の範囲で丁寧に育  
成する

この**プラスα**の部分で  
何を**目指し**、どんな力を  
どのように育成するのか



必須49項目(+実習) + 「養  
成に求められる**資質・能力**」  
に加え**独自**に日本語教師  
教育に必要なカリキュラムを  
検討する

## 2. カリキュラムの再編

日本語教師養成カリキュラム  
を再編する際には、何から  
検討すればよいのか？



# 教師教育プログラムの再編で検討すべき3つの要素

1. 学習観と知の  
在り方に関する  
捉え方

## 教師教育観

カリキュラム内でどのような教育観が  
提唱されるのか

\*これが抜け落ちるとトップダウンで資格  
基準を満たすだけ、現場の文脈や考えが  
反映されないものになる

(Murray & Christison, 2011, p.13)

2. プログラムの  
構成と実践・  
活動

3. スタッフと  
組織の質

教師育成プログラムと  
その改編に関する構成要素  
(Korthagen et al., 2006)

### 3. 教師教育観

---

ア) 言語教育における学習観、  
教育観、教師の役割とは？



以下のA~Cの考え方のうち、あなたの学習観・教育観・教師観として当てはまるのは、どれですか？

## 1. 知識

- A) 知は、与えられるものだ
- B) 知は、探し出すものだ
- C) 知は、個人ではなく、社会的（他者との対話、ネットワークの結合など）に生まれていくものだ

何かについて知りたいとき、どのように調べますか？  
辞書？ Google？ SNSの#？

## 2. 主な学び

- A) 暗記中心の学習が大切だ
- B) 自らルールやパターンを導き出す探究的学習が大切だ
- C) その社会やコミュニティの成員として認められる存在になることが大切だ

## 3. 教師の役割

- A) 知識の提供者
- B) 学びや学習意欲を促進するファシリテーター
- C) 学びの環境や文脈を提供し、ネットワークをつくり、つなげる人
- D) その他

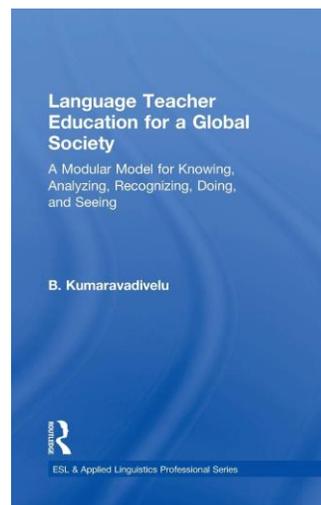


上記3について  
QRまたはchatでお送りする  
URLからご回答ください  
[https://app.sli.do/event/3gzxhFDv\\_iBsLj2DefoBX6G](https://app.sli.do/event/3gzxhFDv_iBsLj2DefoBX6G)  
(無記名でどうぞ!)

# グローバル化社会での言語教育・言語教師教育

- Post-national
- Post-modern
- Post-colonial
- Post-transmission
- Post-method

1. 同化主義政策  
→ 複言語・複文化主義
2. 認知主義・構造主義  
→ 社会構成主義
3. 画一的な教育  
→ 個々の現場特化型



“Language Teacher Education  
for a Global Society”  
(Kumaravadievelu, 2012)  
クマラヴァディヴェル

## 「日本語教育の参照枠」(文化庁, 2021年)

- 日本語学習者を社会的存在として捉える
- 言語を使って「できること」に注目する
- 多様な日本語使用を尊重する

### 3. 教師教育観

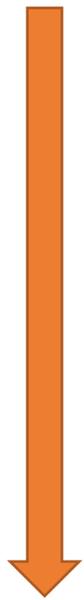
---

ア) 言語教育における学習観、  
教育観、教師の役割とは？

イ) 言語教師教育も変化して  
いる？



# 言語教師に必要な知見・知識基盤に対する考え方の変遷 (Freeman, et al., 2019)



世代	主な関心ごと	扱う知
1. 学術分野的な知 「何を？」教える	教えるために必要な知は何か。	教え方自体 Knowledge as pedagogy
2. 教授法的な知 「どのように？」教える	どのように教えるか？	
3. 教師自身や現場における知 「誰が？どこで？」教える	教師の個人的な経験や教育現場の文脈は教師の実践にどのように影響するのか。	+  教え方を考えるための知 Knowledge for pedagogy
4. 教えるための知 「なぜ(必要)？」そのような教育実践を採用するのか	教える過程において知がどのように機能するのか。	

必須の50項目  
(文化庁)

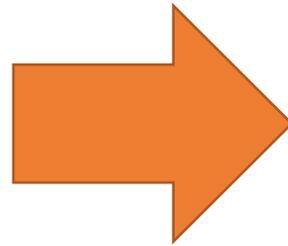
この部分は  
どうする？

言語教育の歴史ではなく、社会的・専門的に言語教師にとっての関心ごとが変化してきたことを示している。

# これからの言語教師教育は、どうなる？

(Freeman, 2020)

業務主導型  
(work driven)



現場主導型(field driven)の  
養成課程へ

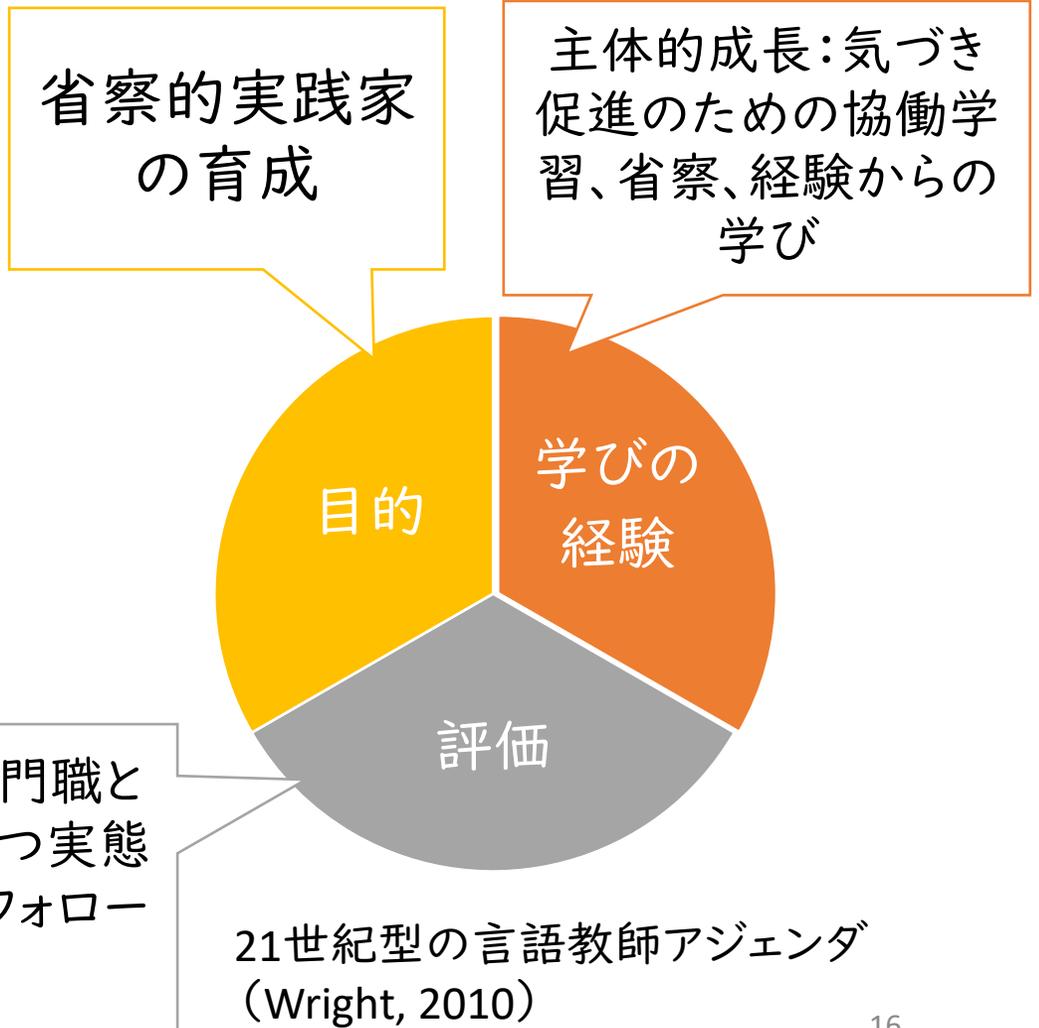
トップダウン、  
知識伝授・知識基盤獲得型  
の発想

- 何を教えるのか？
- どのように教えるのか？
- 誰が教えるのか？
- 誰が、何のために学ぶのか？
- 養成課程の教師はどのように育成され、現職者の成長はどのように支援できるのか？

# 言語教師教育における転換(Wright, 2010)

「言語教師として必要な知識」の再考  
(Crandall, 2000)

1. 構成主義、省察的実践家
2. 教師になる前の学習ビリーフの影響力
3. 現場で経験しながら学ぶ
4. 教師成長は生涯学習



# 教師教育観とカリキュラム

## 例) 自己研修型教師を目指す例

1. 学習観、知の在り方に関する捉え方

知識基盤獲得だけでは心配

例) 自身で課題解決のアプローチを探る自己研修型教師の育成

例) 卒業研究を導入  
例) 経験学習を導入

2. プログラムの構成と実践・活動

3. スタッフと組織の質

養成課程外の現場で学ぶための学内外の連携

#### 4. グローバル社会における言語教師教育で何を目指す？

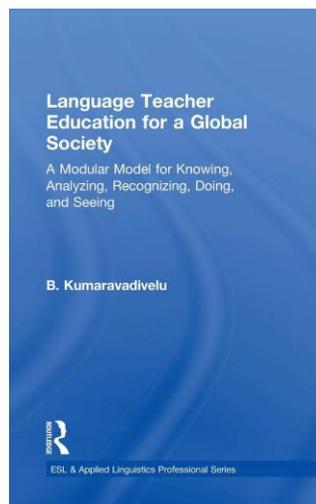
20年後も活躍できるような日本語教師とは？

どのように育成できる？



# グローバル化社会での言語教育・言語教師教育

- **Post-national**
  - **Post-modern**
  - **Post-colonial**
  - **Post-transmission**
  - **Post-method**
- **ポスト伝達主義**: 知識基盤を詰め込む教師教育からの脱却
  - **ポストメソッド**: 万能な教授法を教え込む教師教育からの脱却



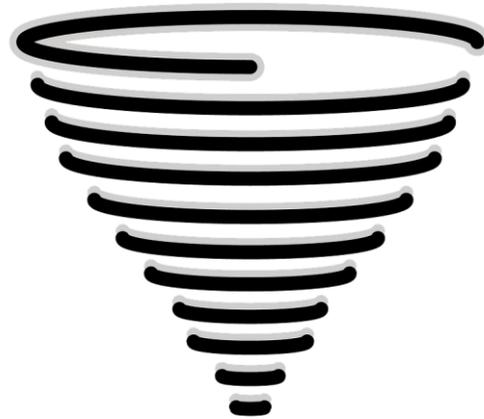
“Language Teacher  
Education for a Global  
Society”  
(Kumaravadevelu, 2012)  
クマラヴァディヴェル

# グローバル社会における教師教育 3つの運用原理 (Kumaravadivelu, 2012)

①場の特殊性

②実践性

③可能性



伝達主義



変革志向の教育原理

「この原理—は、言語を学ぶこと、教えること、そして教師教育に関して、**教育的、文化的、社会的、政治的な流れの中で**、それに応えていくために必要な概念をつくることと、文脈を生みだすことを可能にしようとしています。また、それに加えて、**学習者と教師と教師教育者の役割を結びつける**新たなパターンを提示し、共生的な関係と、相乗的な結果が約束される原理です。」(Kumaravadivelu, 2001, p.557;南浦ほか, 2022, p.31)

## 4. グローバル社会における言語教師教育で何をを目指す？

### ①場の特殊性



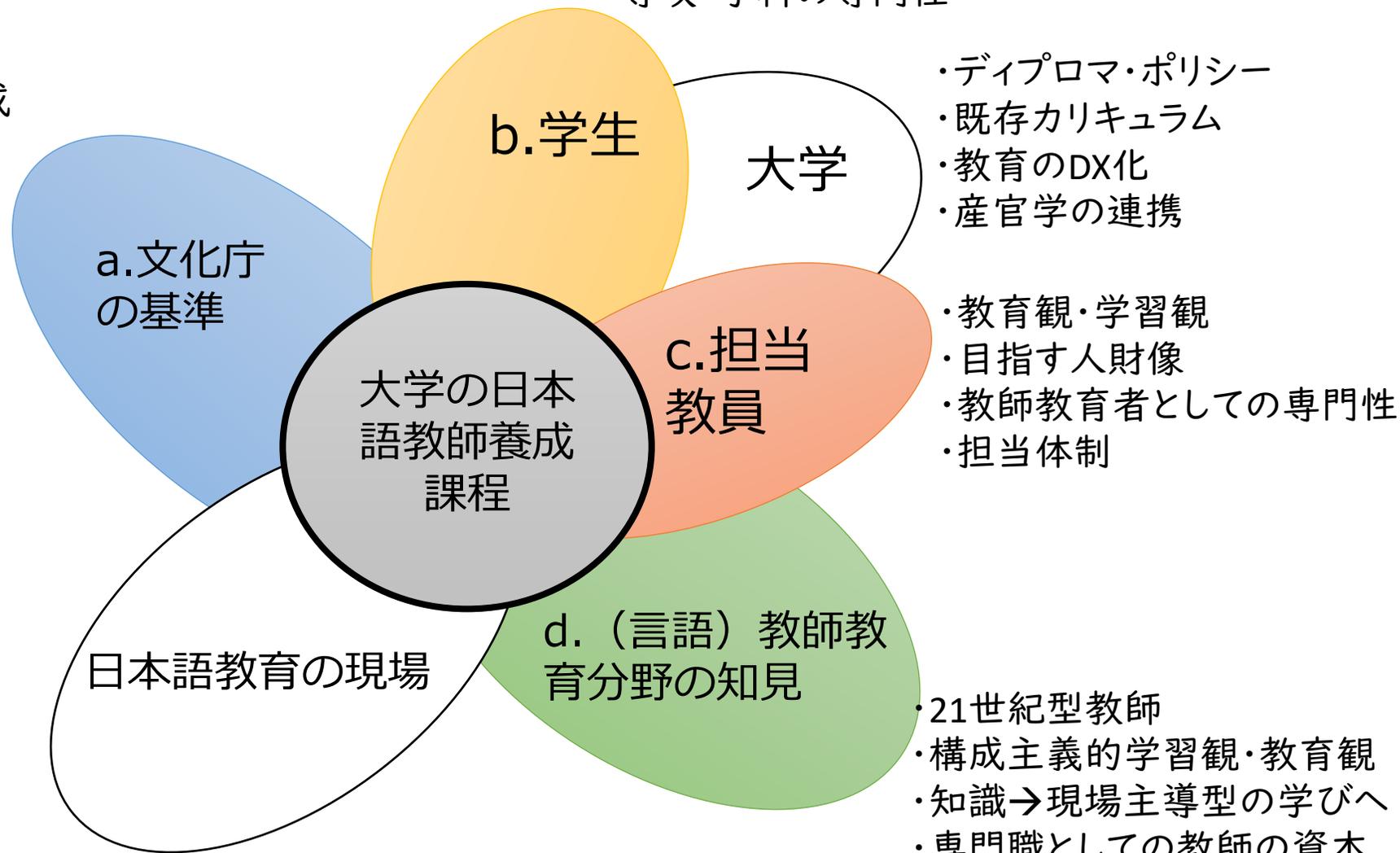
- 個々のローカルな現場文脈に沿った養成プログラムとは？
- 国家資格の内容とどう向き合っていく？



# 大学日本語教員養成プログラムの コンテキスト、ステークホルダー

- ・登録日本語教員制度に伴う養成  
コアカリキュラム（必須項目、実習  
の必修化と基準）
- ・養成に求められる資質・能力
- ・登録日本語教員制度
- ・日本語教育の参照枠
- ・日本語学習「支援者」

- ・実践力重視？
- ・若手不足？
- ・学習者の多様化と個別最適化
- ・ICTの活用
- ・文法積み上げ→参照枠
- ・認定日本語教育機関



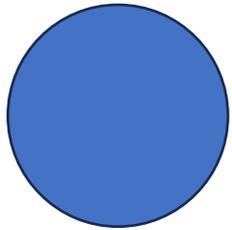
- ・ニーズ・レディネス
- ・21世紀型コンピテンシー
- ・学士力・社会人基礎力
- ・専攻・学科の専門性

- ・ディプロマ・ポリシー
- ・既存カリキュラム
- ・教育のDX化
- ・産官学の連携

- ・教育観・学習観
- ・目指す人財像
- ・教師教育者としての専門性
- ・担当体制

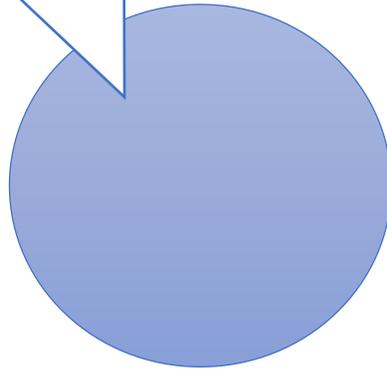
- ・21世紀型教師
- ・構成主義的学習観・教育観
- ・知識→現場主導型の学びへ
- ・専門職としての教師の資本
- ・拡張するティーチング

# 例えば...



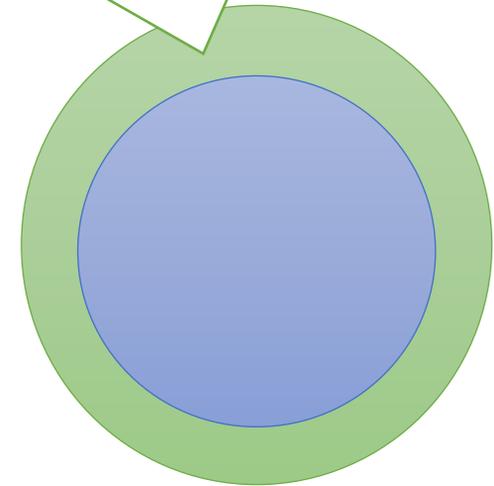
最低限のプログラム：  
25単位で必須49項目を  
効率よくカバーする。  
(+実習)

どのようにすれば、知識  
だけではなく**技能・態度**も  
育成できるか



必須49項目(+実習) +  
「養成に求められる資質・  
能力」の範囲で丁寧に育  
成する

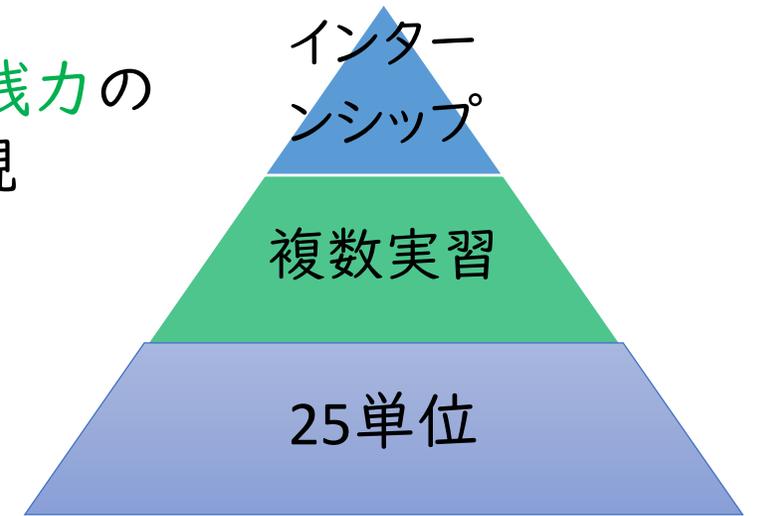
この**プラスα**の部分で  
何を目指し、どんな力をど  
のように育成するのか



必須49項目(+実習) + 「養  
成に求められる資質・能力」  
に加え**独自**に日本語教師  
教育に必要なカリキュラムを  
検討する

# 各大学・養成プログラムの独自性を生かす例

A: 現場実践力の育成を重視



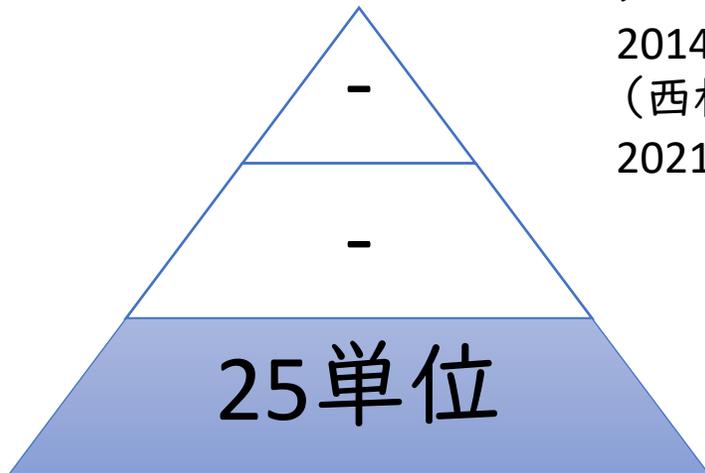
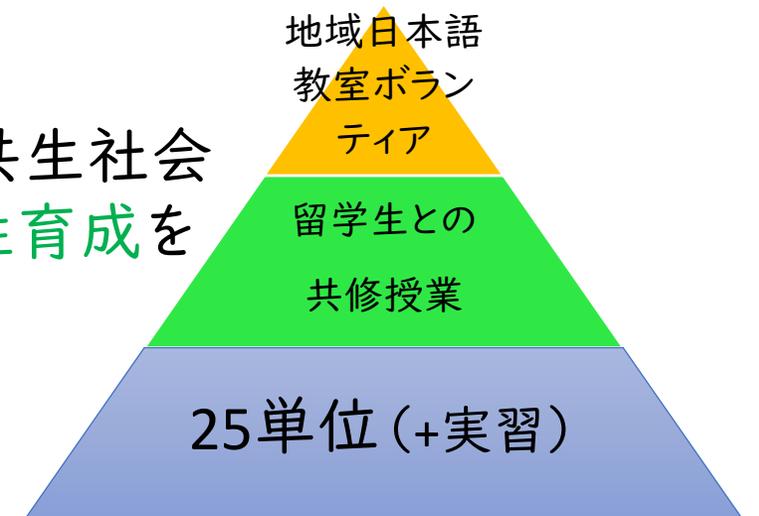
大学の養成における特徴

例えば...

グローバル人材や「社会人基礎力」(中川ほか, 2014)「一般教養としての日本語教師養成」(西村, 2020)、「日本語教員の素養」(名嶋, 2021)



B: 多文化共生社会での市民性育成を重視



# 「日本語教師【養成】に求められる資質・能力」(文化庁)について 大学の養成担当教員は、どのように考えているのか。

使える	使うには工夫が必要	使えない
<p>・議論する際の観点ツールとして使える</p>	<p>・この資質・能力を養うための方法や場の提供が重要</p> <p>・暫定的なものとして、今後再検討も必要</p> <p>・提示された内容の使い方に関する手引きの明示が必要</p> <p>・日本語教育ならではの特徴が分かるように明示することが必要</p>	<p>・外国人児童生徒の教育に関しては、別のガイドラインが必要</p> <p>・資質・能力は、トップダウンではなく養成課程教員が検討すべきもの</p> <p>・妥当性に疑問がある</p> <p>・要求レベルや範囲に無理があり、到達は難しい</p>

## 文化庁が示した資質・能力以外に必要な点

- ・教育観・言語教育観に関するもの
- ・社会正義・公正性に関わる項目
- ・主体的・自律的な教師として必要な力量
- ・同僚性の観点
- ・(教室運営に必要な力)

オープンコード：8  
 焦点的コード：5

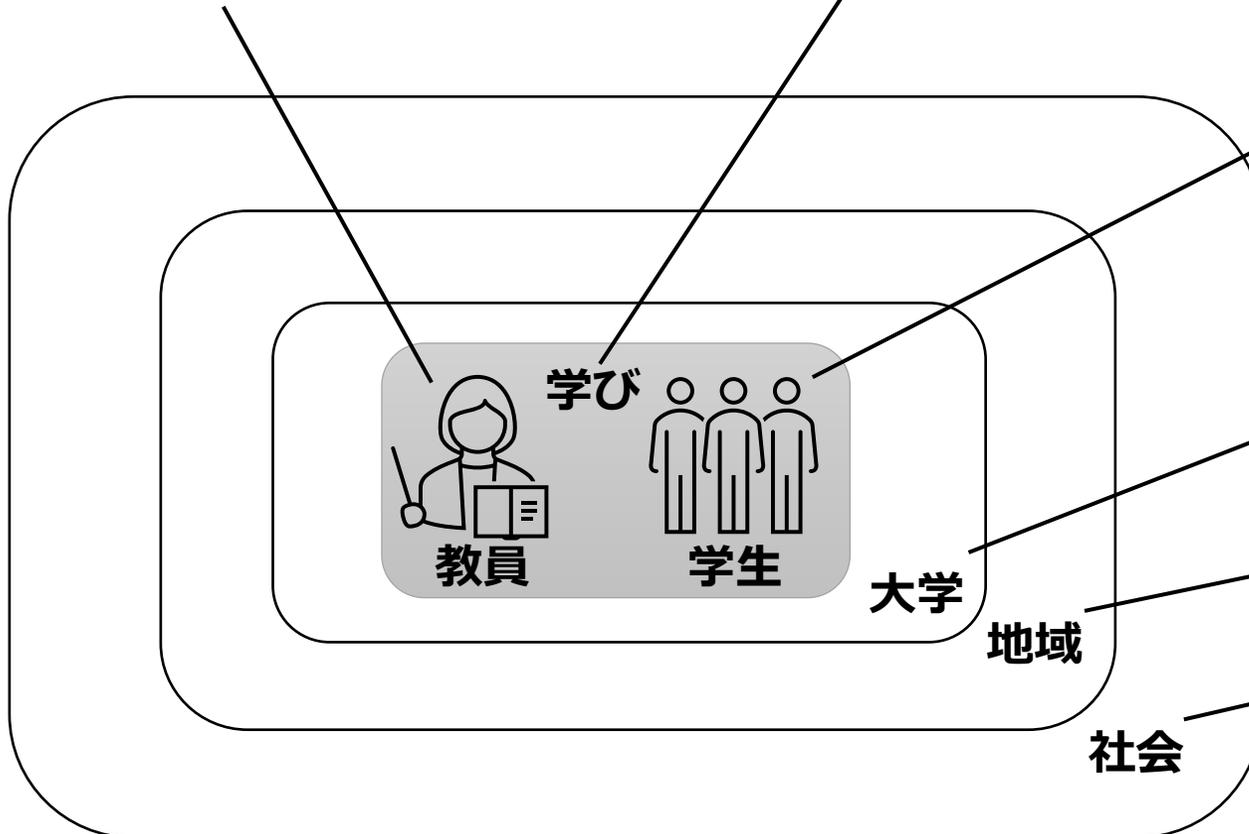
オープンコード：16  
 焦点的コード：9

# 大学ならではの養成課程の特徴 (担当教員の回答から)

大学養成担当教員への調査 n=33校  
オープンコード：45  
焦点的コード：11

- 専門性の高い多数の教員から学ぶことができる

- 教育観から学び、マニュアルではなく主体的に考えることができる教師を育成できる
- 学際的な学びの中で広い視野を持った日本語教員の育成ができる
- 学士力と重なっている日本語教師の学びがある



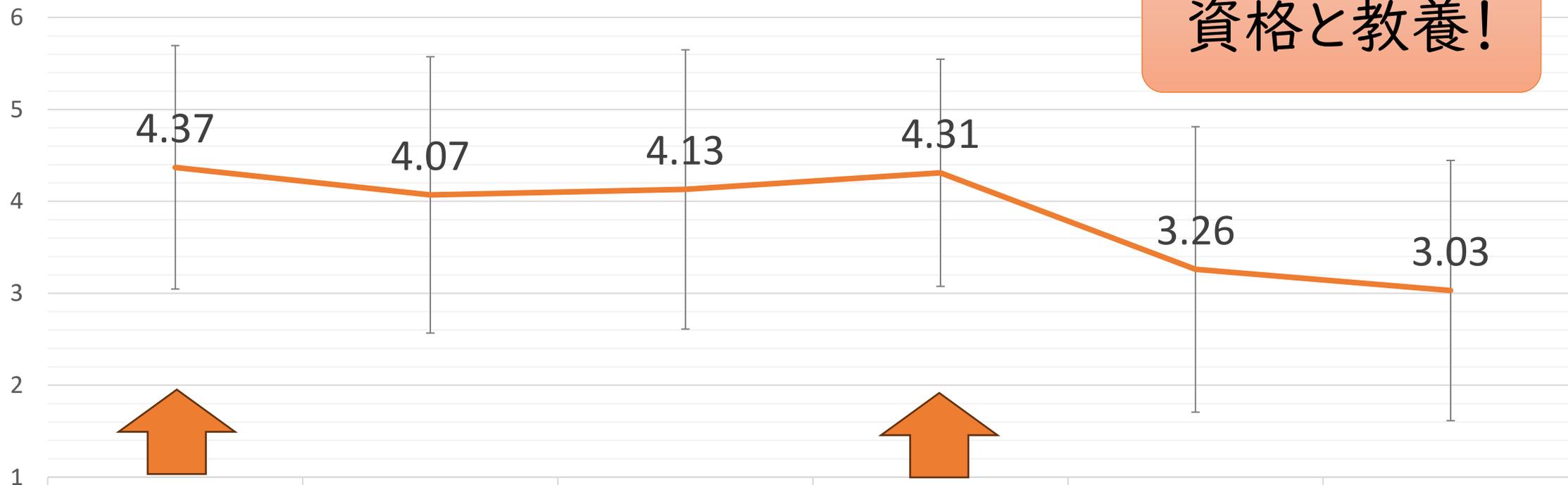
- 学生ならではの立場や特徴がいかせる
- 資格が獲得できる
- 外国人児童生徒に関して日本語教育の基礎知識は教員志望の学生に有益な学びになる
- 大学ならではの多様な学習機会や活動が提供できる
- 地域・学校での日本語学習支援に繋がる
- 多文化共生社会に必要な市民性教育としての日本語教育ができる
- 若手日本語教師の育成につながる

# 大学生の養成課程、受講目的は何か？

n=167 (9大学)  
科研チーム(清水裕子)  
2023年春・秋調査結果速報

日本語教員養成課程の受講目的

資格と教養!



資格を取得したい

卒業後の進路・  
職業の一つ

日本以外の国  
に住んだ時に  
役に立ちそう

教養として学び  
たい

教職にメリット  
になる

なんとなく面白  
そう

— 系列2

4.37

4.07

4.13

4.31

3.26

3.03<sub>27</sub>

## 4. グローバル社会における言語教師教育で何をを目指す？

### ②実践性



理論 vs. 実践？  
現場 vs. 養成？  
研究者 vs. 教育者？

日本語教育現場と養成をつなぐには？



# 現場と養成課程の乖離はあるのか？ある場合はどんな乖離？ (担当教員の回答から)

- 現場で必要な能力を養成課程で扱えていない
- 実際に教える際に必要となる知識や技能をすべて網羅するのは不可能
- 教壇実習で実習生に求められる基準が高すぎる

養成課程の  
 学び

- 国内大学の留学生を対象とした日本語教育に偏りがち
- 教え方やその前提となる考え方と優先順位が現場と養成課程で異なる場合がある



日本語教育  
 の現場



- 養成課程は日本語教師を目指さない人も含めたカリキュラムである

養成課程の  
 環境

日本語教師  
 キャリアの道筋

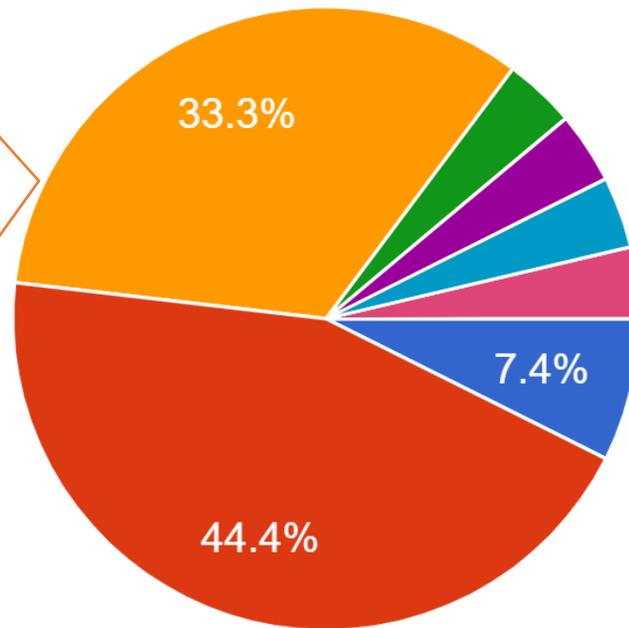
- 日本語教師を職業とする際に向き合わないといけないう不明なキャリアの現実がある

# 養成担当教員が想定する課程修了時の到達レベル

(2)大学での日本語教師養成課程では、日本語教師育...か。以下の達成基準から1つ選んでください。

27件の回答 \*トライアル調査後に追加した設問のためn=27

- 日本語教師の職業が安定しておらず、ならない人も含めたカリキュラムだから
- 教えるスキルは現場で身に付けられるが、前提となる教育観は大学で醸成する必要があるから

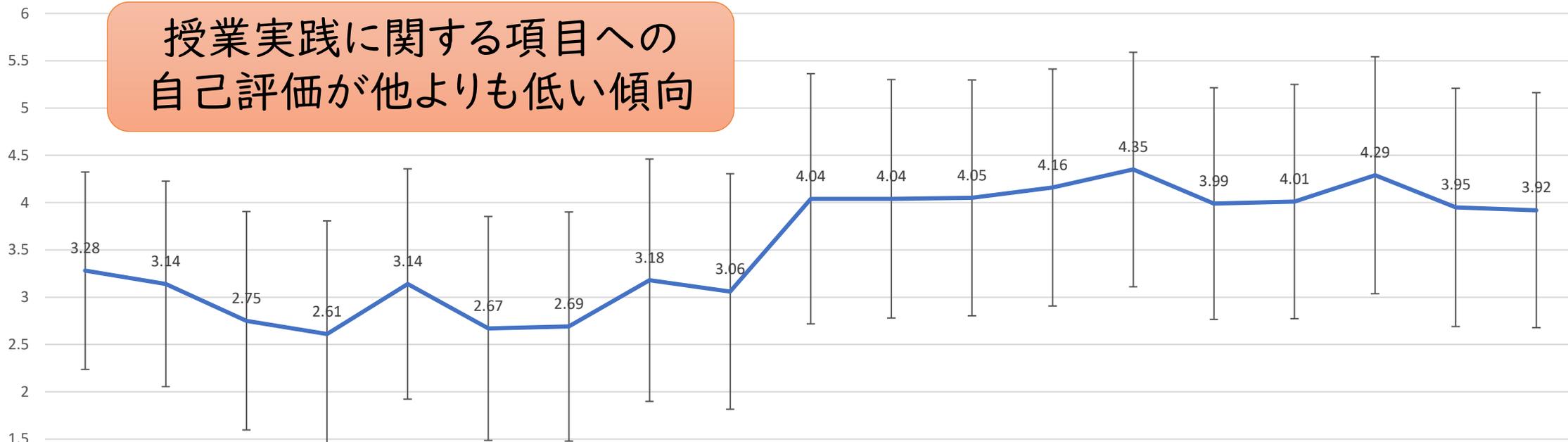


- 現場での即戦力になるレベル
- 現場で研修を受ければ働くことができるレベル
- 日本語教師としての素養を身につけるレベル
- 即戦力とまではいかないかもしれないけれど現場に揉まれても何とかやってい...
- 主専攻か副専攻かによると思う
- 本学の「日本語教員養成課程45単位...
- 「現場での即戦力になるレベル：学生...

- 副専攻(26単位)だから
- 一般企業と同じで現場でOJTを受けて業務に入れるレベル
- 多様な現場に就くので全ての現場に合わせた即戦力までは無理

# 養成課程開始時の受講生による自己評価

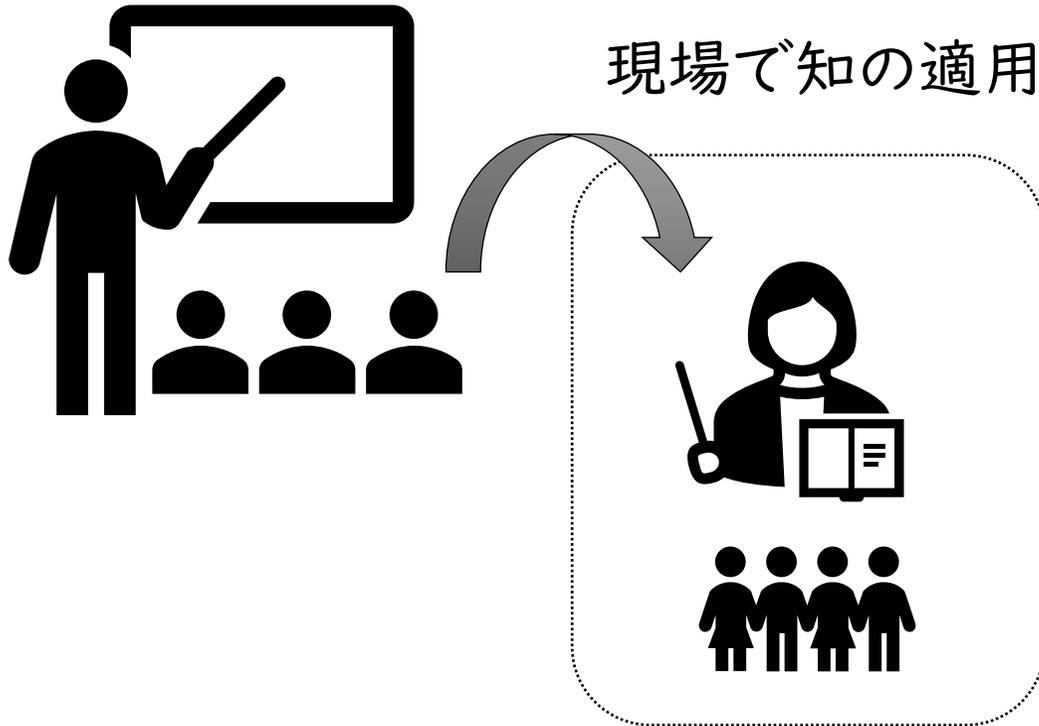
授業実践に関する項目への自己評価が他よりも低い傾向



日本語の構造に関して理解	言語発達や言語習得について理解	日本語の授業を計画し、実施するために必要となる基礎的な知識	様々な環境での学びを意識した日本語プログラムのコースデザインを行うための基礎的な知識	外国人施策や多文化共生など外国人や日本語教育を取り巻く状況に関して一般的な知識	学習者に応じた内容・教材 (ICTを含む)・方法を選択するために必要となる知識	学習者の日本語能力を測定・評価する上で必要な知識	学習者の理解に応じて日本語を分かりやすくコントロールできる	学習者が社会とつながることを意識した教え方を検討できる	学習者や個人の言語・文化の多様性を尊重できる	背景や価値観の違いやコミュニケーションをとれる	自身のものの見方を常に問い直すことができる	価値観や習慣の違いを理解した上で、多様な人と連携・協力できる	何語が話せるか、どんな文化背景を持っているかは、個人のアイデンティティに影響を及ぼす可能性があることを理解	多様な言語文化背景を持つ人にとって生きやすい社会の在り方を考えることができる	自身の実践を客観的に振り返り、常に学び続けることができる	外国人としてではなく一人の人間として(学習者に)接することができる	受身ではなく、主体的に問いや課題を立て、解決方法を考えることができる	グローバル社会の中で果たせる(果たすべき)自分の役割について考えることができる	
— 系列1	3.28	3.14	2.75	2.61	3.14	2.67	2.69	3.18	3.06	4.04	4.04	4.05	4.16	4.35	3.99	4.01	4.29	3.95	3.92

# 実践とは？理論とは？

一般的理論・技術



知識転移型モデル

実際は、理論と現場の乖離で  
うまく適応できない、  
リアリティ・ショック

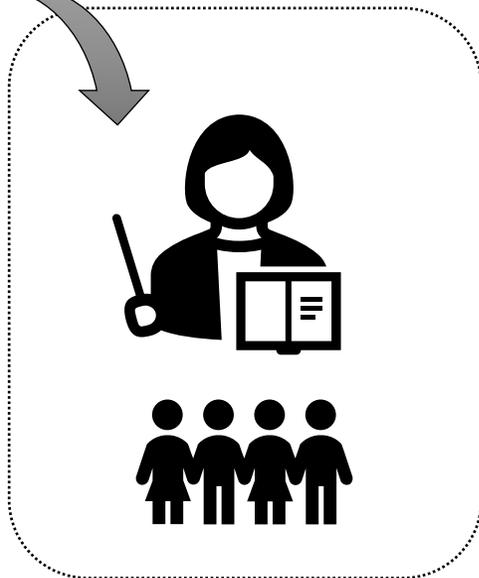


# 現場で溺れない教師の育成 に向けて

一般的理論・技術



現場で知の適用

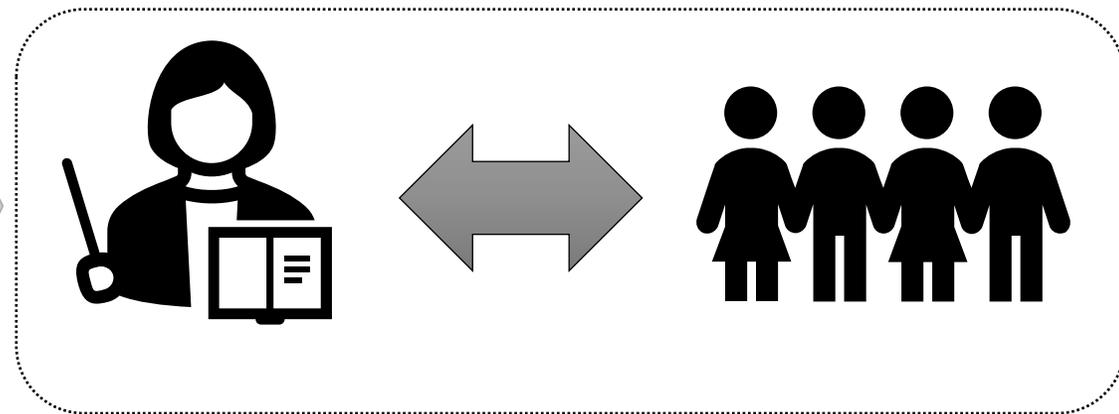


知識転移型モデル

理論と実践の関係（佐藤学, 1998）

- 「理論の実践化」：学問知
- 「実践の典型化としての理論」：ベテラン教師の方略
- 「**実践の中の理論**」：個々の現場文脈で生まれる知

現場で実践を理論化



理論：実践の内側で常に機能しているもの

**現場・実践の中で知を構築するモデル**  
リアリスティック・アプローチ  
（コルトハーヘン, 2012）

# 現場・実践の中で知を構築するには？

現場経験とその省察による学び

- (模擬授業)
- 実習
- 学内外の留学生との交流
- ケースメソッド
- インターンシップ
- ボランティア活動
- サービス・ラーニング

国家資格との関連性

△: 養成の「必須の49項目」

文化庁基準との関連性

○: 「養成における資質・能力」  
(技能・態度部分)

## 4. グローバル社会における言語教師教育で何をを目指す？

### ③可能性



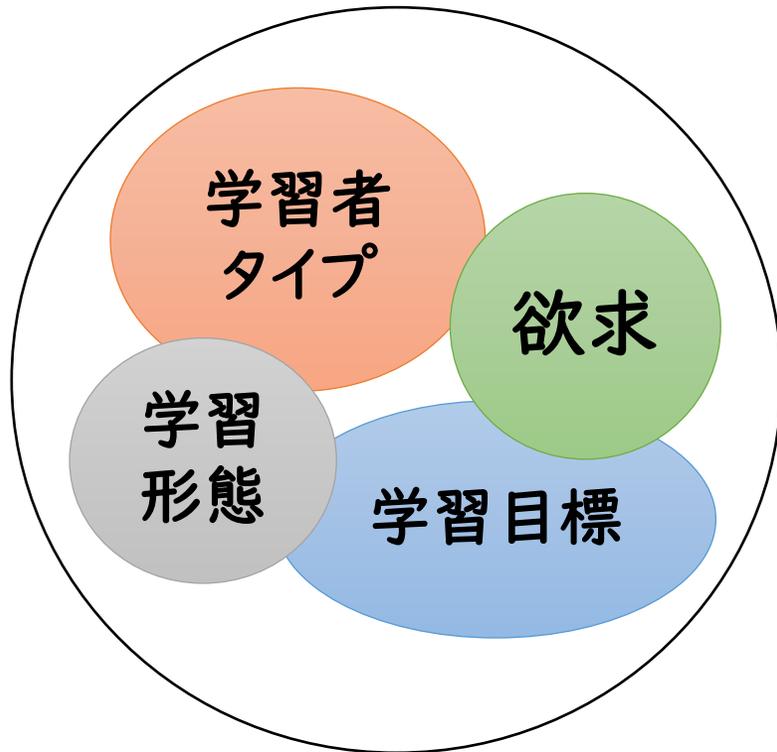
ア) 国家資格化で日本語教師は、より魅力的な職業になるのか？



# 言語教育の多元性 (Kubota, 2016)

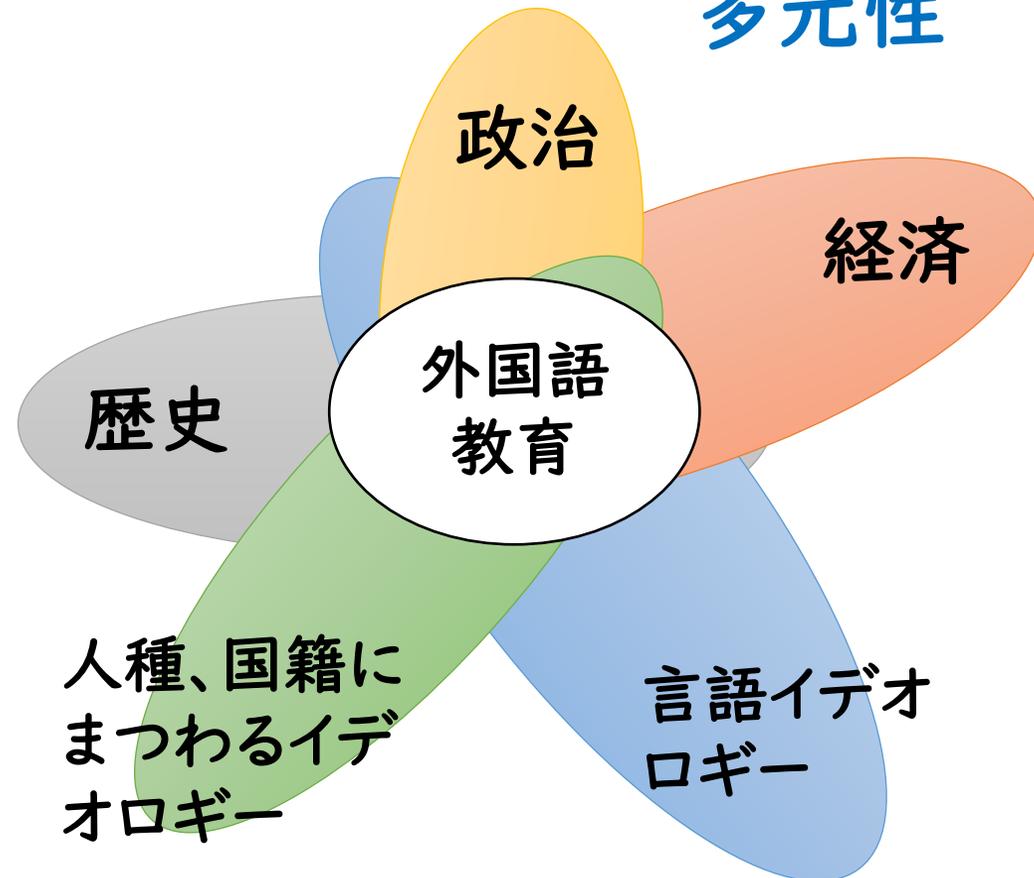
言語教育の中にある面々...

多様性



言語教育を取り巻く社会的な面々...

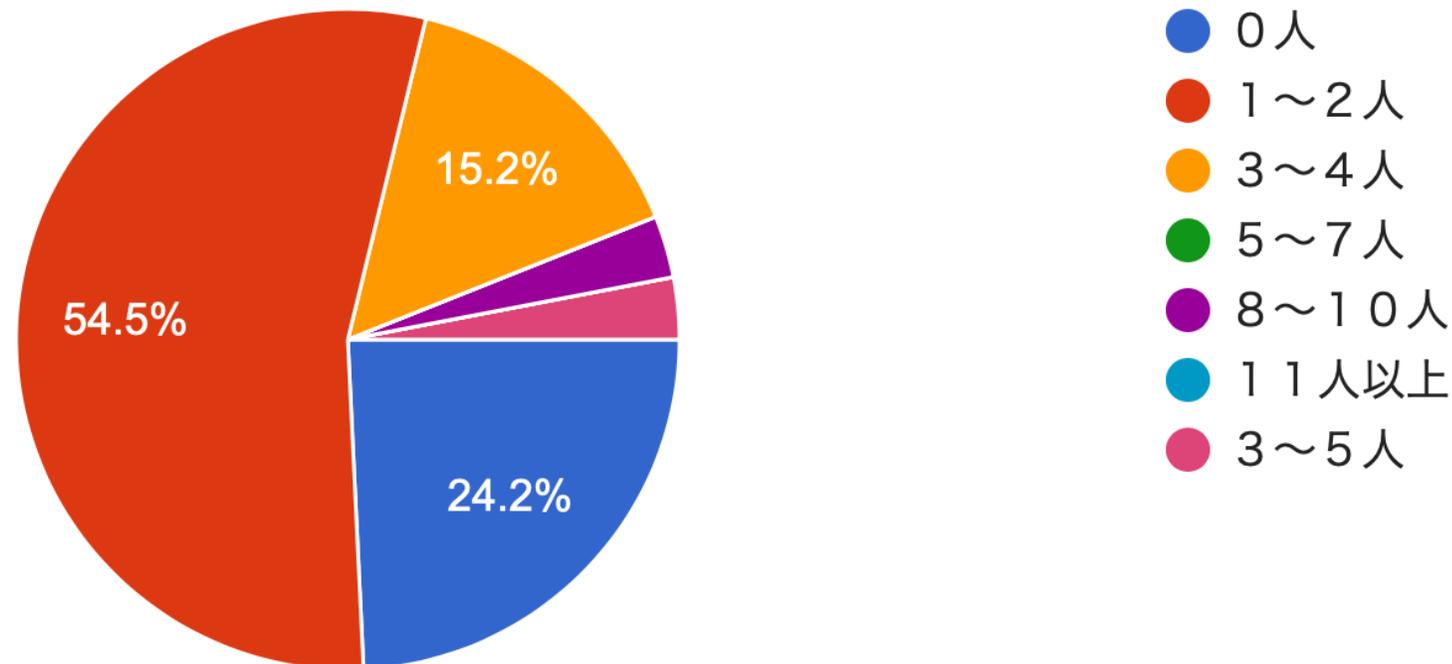
多元性



# 大学の養成を修了し、新卒で日本語教師になる？

(5)毎年、平均何名が新卒でのキャリアとして日本語教師を選んでいますか。

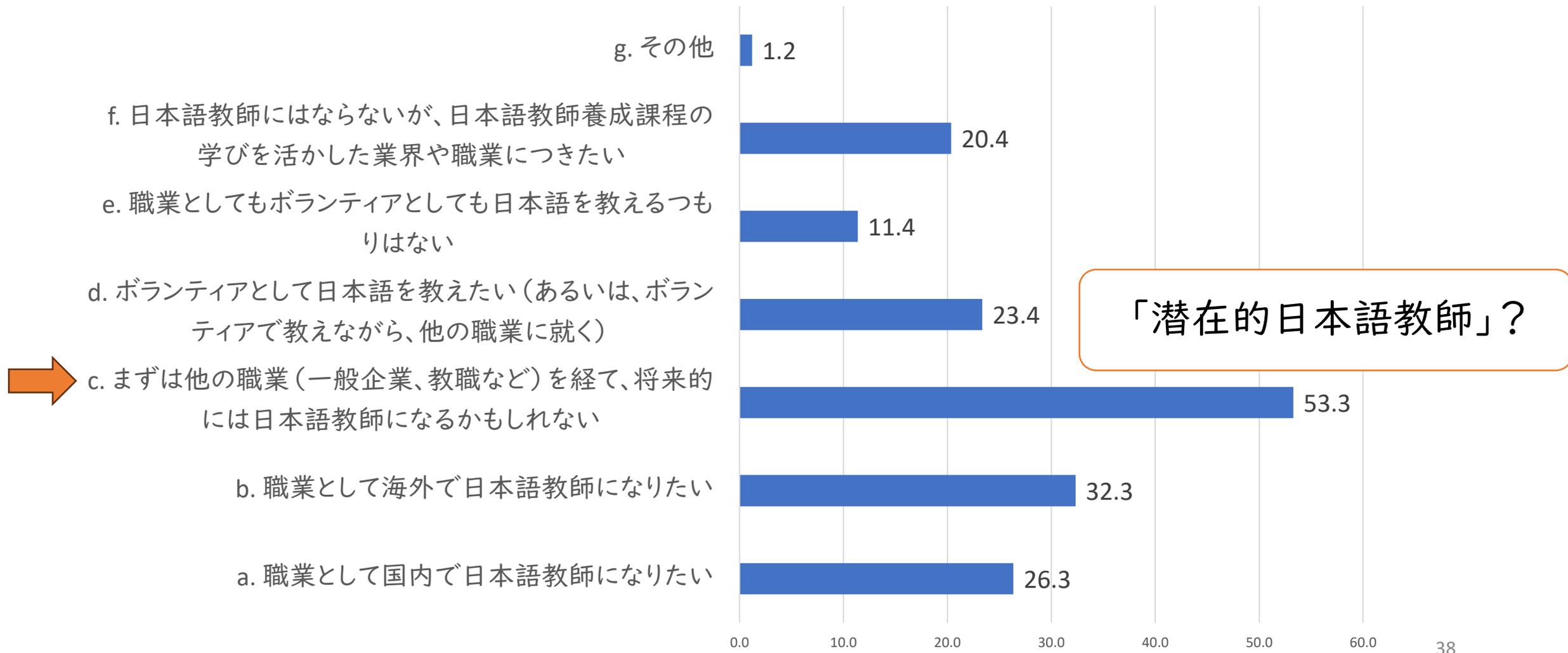
33件の回答



# 受講開始時の学生が考える卒業後のキャリア

n=167 (9大学)  
科研チーム(清水裕子)  
2023年春・秋調査結果速報

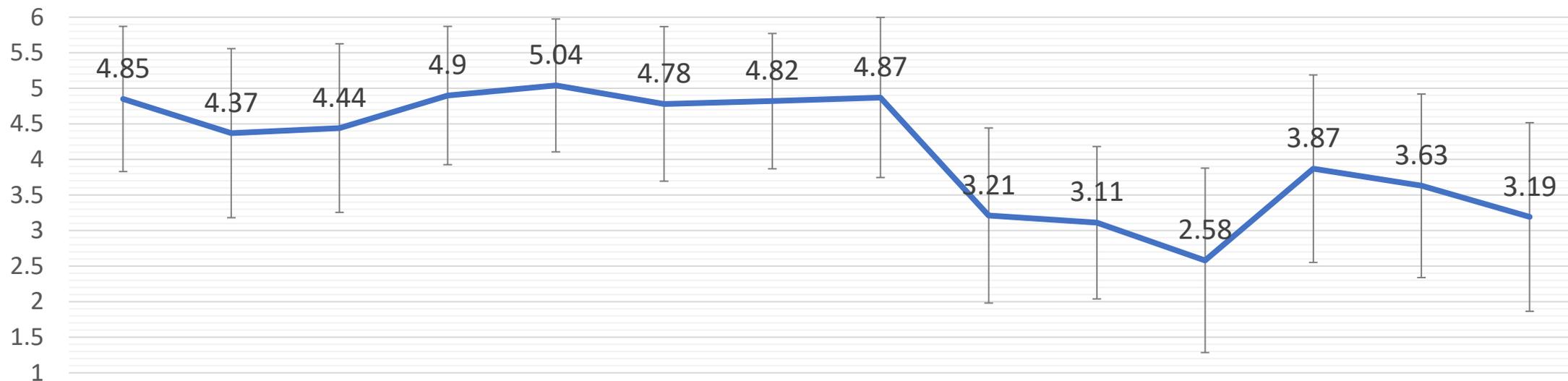
複数回答可(選択者の割合%)



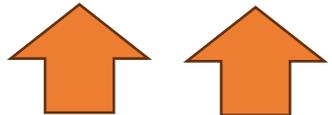
# 養成課程の受講開始学生による 日本語教師の職業イメージ

n=167 (9大学)  
 科研チーム(清水裕子)  
 2023年春・秋調査結果速報

平均値と標準偏差



多様な背景の人と交流できる  
 誰かの夢をかなえる  
 自分の能力を活かせる  
 やりがいがある  
 人の役に立つ  
 専門性が高い  
 社会に貢献  
 海外で活躍  
 待遇がいい  
 社会的地位が高い  
 業務が楽  
 一生続けられる  
 ボランティアで  
 定年後にするもの



## 4. グローバル社会における言語教師教育で何をを目指す？

### ③可能性



ア) 国家資格化で日本語教師は、より魅力的な職業になるのか？

イ) 知識体系の伝授だけではなく、日本語教育や社会を変えていけるような教師教育とは？



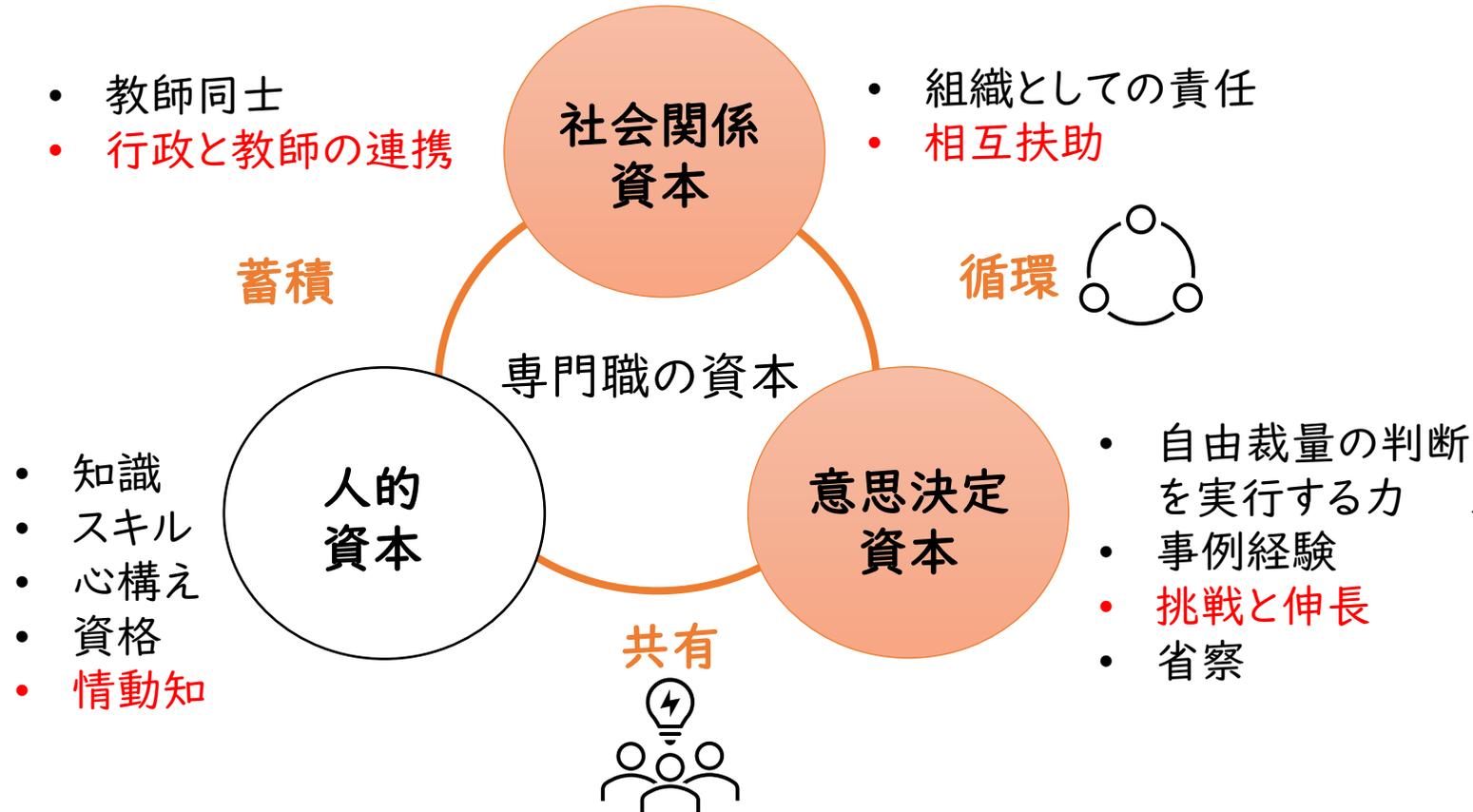
# 専門職としての(日本語)教師の資本

Hargeaves & Fullan (2012)  
木村他 (2022, p.223)

赤字:養成担当教員を対象とした調査では、特に記載がなかった点

世代継承性、同僚性、  
ピア・ラーニングコミュニティ、  
ネットワーク

日本語教師の分野でさらなる  
発展が期待される部分?



文化庁の基準

マニュアル教師で  
はなく、教育観から  
育成する必要?

# ディスカッションへ

- 国家資格化の転換期をむかえ、日本語教育の未来はようになる？
- 既に工夫されている、または、工夫できそうなことは何か。



## ①場の特殊性

あなたが携わっている現場には、どのような特徴（資源、ニーズ、制約等）があるか？  
そして、それらに配慮した日本語（教師）教育プログラムにするために、どのような工夫をしているか、工夫ができそうか。



## ②実践性

・日本語教育・日本語学習支援の「現場で知を構築していく」方法として、どんなものが考えられるか。  
・養成と日本語教育現場がうまく連携・協働するにはどうすればよいか？



## ③可能性

・「日本語教師は興味あるけど、食べていけない」言説を変えていくには、どうすればよいか。  
・日本語教師の資本を維持・向上させていくために、具体的に何ができるか。

# ご清聴ありがとうございます

お問い合わせ 北出慶子 kitade@lt.ritsumei.ac.jp

---

## 謝辞

1. 本企画で報告した調査は、JP科学研究助成費（基盤B）22H00671の助成を受けており、発表者の他にも複数のメンバーによる研究成果です。
2. 本企画で報告した調査にご協力くださった皆さまに、この場を借りて改めて心よりお礼申し上げます。

科研基盤BのHP <https://www.jlte.jp/>

# 引用文献

- コルトハーヘン(編著)(2012) 武田信子監訳『教師教育学—理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ—』学文社
- 佐藤学(1998)「教師の実践的思考の中の心理学」佐伯胖・宮崎清孝・佐藤学・石黒広昭『心理学と教育実践の間で』東京大学出版会
- 中川 良雄, 天満 理恵, 上野山 愛弥(2014)「日本語教員の養成は, グローバル人材の育成につながるか」『日本語教育方法研究会誌』21(2), 54-55.
- 名嶋 義直(2021)「日本語教育副専攻課程の社会的責務—日本語教員の素養を持つ非専門家を増やす—」『琉球大学教育センター報』124-129
- 西村 美保(2020)「多文化共生時代における母語話者育成のあり方—教養としての日本語教員養成—」『大学日本語教員養成課程協議会論集』18, 13-24.
- Crandall, J. (2000) Language teacher education. *Annual Review of Applied Linguistics*, 20, 34-55.
- Freeman, D.(2020) Arguing for a knowledge-base in language teacher education, then (1998) and now (2018). *Language Teaching Research*, 24(1), 5-16.
- Freeman, et al., (2019) What counts as knowledge in English language teaching? In “*The Routledge Handbook of English Language Teacher Education*” Walsh, S., and Mann, S. (Eds.) Routledge.
- Hargreaves, A., & Fullan, M. (2015). *Professional capital: Transforming teaching in every school*. Teachers College Press. 和訳:木村ほか(2022)『専門職としての教師の資本: 21 世紀を革新する教師・学校・教育政策のグランドデザイン』金子書房.
- Korthagen et al., (2006) Developing fundamental principles for teacher education programs and practices. *Teaching and Teacher Education*, 22, 1020-1041.
- Kumaravadivelu, B. (2012). *Language teacher education for a global society: A modular model for knowing, analyzing, recognizing, doing, and seeing*. Routledge. 和訳:南浦ほか(2022)『言語教師教育論: 境界なき時代の「知る・分析する・認識する・為す・見る」教師』春風社.
- Murray, D. E., & Christison, M. (2011) *What English Language Teachers Need to Know: facilitating learning, Vol 2*. Routledge.
- Wright, T. (2010) Second language teacher education: Review of recent research on practice. *Language Teaching*, 43(3), 256-296.



# グループになったら...

1. まず、誕生「月」を共有し、以下の役割を決める。

- **司会進行**: 誕生「月」が2月に1番近い人
- **メモ係** (padletへ記入): 2番目に2月に近い人
- **全体共有での報告係**: 3番目に2月に近い人

2. 簡単な自己紹介をする。

今、どんな場でどんな日本語教育(日本語学習支援など含む)に関わっているか、共有してください。

3. ディスカッションのテーマを決める。

3つのうちのどれかから開始、または、3つ以外のテーマで、何か印象に残ったこと、考えてみたいことでもどうぞ。

メモはpadletにご記入  
ください。



<https://padlet.com/kitadekeiko2020/0224-xwcm1cqkp42qisiv>